

AR Audio Guideチーム(glow)

エアール・オーディオ・ガイド・チーム(グロウ)

Circuit Lab. a team of UNIBA

サーキット・ラボ ア・チーム・オブ・ユニバ

スコット・アレン(glow)

Scott ALLEN(グロウ)

堀宏行

HORI Hiroyuki

metamu

めたむ

ICC
キッズ・プログラム
2026

ICC Kids Program 2026
A Promise Yet to Be Delivered:
Making and Media Creations

みかんのやくそく

つくって、とらえる
メディア・クリエイションズ

2026.7.25(±)

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] ギャラリーA、ハイパーICC | 入場無料

→ 8.30(日)

開館時間: 11:00-18:00

休館日: 7月27日(月)、8月2日(日)、3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)

主催: NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (NTT東日本株式会社)

協力: 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

後援: 渋谷区教育委員会、新宿区教育委員会、中野区教育委員会、文京区教育委員会

「みかんのやくそく」というタイトルには、

まだ完成していないもの、

まだ届いていない未来への思いが

込められています。

企画、総合ディレクション:

赤羽亨 (IAMAS, glow)

鹿島田知也 (ICC)

Date: July 25–August 30, 2026

Closed: July 27, August 2, 3, 10, 17 and 24, 2026

Venue: NTT InterCommunication Center [ICC] Gallery A, Hyper ICC

Admission Free

Organizer: NTT InterCommunication Center [ICC] (NTT East, Inc.)

Cooperation: Institute of Advanced Media Arts and Sciences [IAMAS]

Under the auspices of Shibuya City Board of Education,

Shinjuku City Board of Education, Board of Education Nakano,

Bunkyo City Board of Education

Curators and Supervisors: AKABANE Kyo (IAMAS / glow) and

KASHIMADA Tomoya (ICC)

NTT EAST

ICC
INTERCOMMUNICATION CENTER

[展示概要]

「みかんのやくそく」というタイトルには、まだ完成していないもの、これから誰かに手渡されていくもの、そして参加のたびに少しずつかたちを変えていくものを通して、約束を見つめ直そうとする思いが込められています。それは、コンピュータをはじめとするメディア・テクノロジーが本来約束していたはずの「誰もが作り、考え、とらえ返すことのできる環境」への問いでもあります。

本展では、生成AIを含む今日のメディア・テクノロジー環境を、子どもたちの多様な実践を通してとらえ直します。テクノロジーを単なる道具ではなく、ときに応答し、予想外の結果を返す関係性としてとらえることで、「誰がつくるのか」「表現はどこから生まれるのか」という根源的な問いを、あらためて現在にひらいていきます。

本展がひらく問いは、つくる体験のなかだけにとどまるものではありません。子どもたちの実践や来場者の経験は記録として蓄積され、未来へと接続されていきます。展示空間は完成した作品を並べる場所ではなく、人々の関与によって変化し続ける、まさに「メディア・クリエイションズ」の現場となるのです。

[出品作家と作品例（作家名五十音順）]

AR Audio Guideチーム (glow)

「ひかりのなかの音」新作

「ひかりのなかの音」は、鑑賞者と作品、そして展示空間との関係を変化させる音声MR（ミクスト・リアリティ）体験です。ムービング・ライトによって空間に現われる光と、イヤホンから聞こえる音声に導かれながら、鑑賞者は作品を見て回り、立ち止まり、ときに視点を変えながら展示空間を探索します。

音声は作品についての情報を伝えるだけでなく、作品や空間をとらえ直すための問いかけや視点を提示します。鑑賞者は自らの身体を手がかりに移動しながら、作品と空間との新たな関係を発見していきます。

**光のエリアに入り、
声を聞き、動きながら、探索してみよう！**

[企画、総合ディレクション]
赤羽亨

情報科学芸術大学院大学
[IAMAS] メディア表現研究科教授、
産業文化研究センター センター長、
glow主宰



インタラクション・デザインを基盤に、メディア・テクノロジーを用いた表現と、その体験を設計・記録・共有するための方法について研究している。これまで、メディア芸術表現を扱うワークショップ開発、制作プロセスのアーカイブ、3Dスキャニング技術を用いたインタラクティブ・アートの時空間アーカイブに取り組んできた。近年は、鑑賞者の主観的な視聴覚情報と時空間データを組み合わせたVRアーカイブシステム、ARによる実寸大の空間スタディ、博物館におけるAR教材やXR活用、場所と音の関係に着目したAR音声ガイド、生成AIを用いた映像表現の試作などを進めている。これらの実践を通して、作品・展示・学習環境・地域連携を横断するメディア表現の可能性を探究している。



撮影：木原麗三

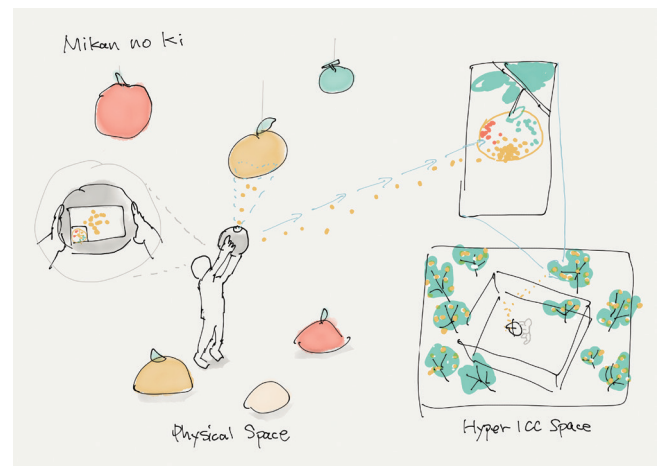
ICC キッズ・プログラム 2025でのAR Audio Guideの様子(参考図版)

Circuit Lab. a team of UNIBA

《みかんのき》新作

《みかんのき》は、展示空間を歩き回り、会場にあるさまざまなものの表面をデジタルな「点群」として集め、組み合わせながら、自分だけの「みかんの実」をつくるワークショップ型の作品です。完成したみかんには、色や形の集積だけでなく、それをつくった時間やプロセスも保存されます。つくられたみかんは、ヴァーチャル空間「ハイパーICC」の中で、それぞれの個性を反映した「みかんの木」へと成長します。そこでは、みかんの実や木が一定のルールにもとづいて変化し、誰かがつくった木が、次の新しい実を生み出すきっかけとなります。現実の展示空間とデジタル世界を行き来しながら、自分の表現が次の誰かの創作へとつながっていく、「みかんのき」の生態系に参加する作品です。

ヴァーチャル空間にみかんを作るってどうするの？



新作のためのスケッチ

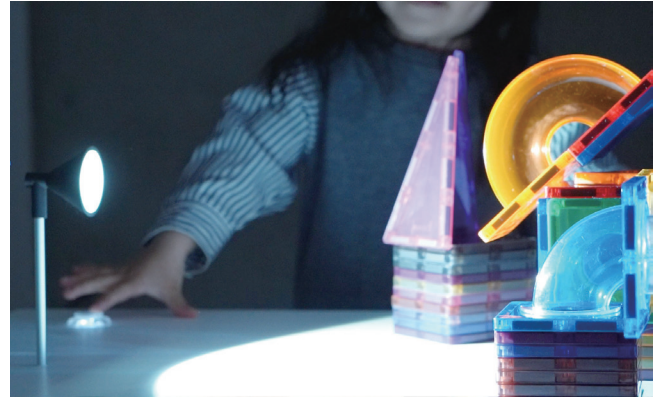
スコット・アレン (glow)

《Unreal Pareidolia - sandbox of shadows-》(仮) 新作

《Unreal Pareidolia* -sandbox of shadows-》は、影の砂場を通して鑑賞者の想像を呼び起こす認知駆動型AIインタラクティブ・インストールです。砂場は、明確なゴールも、遊ぶ人と人を隔てる境界もなく、掘っては崩し、また積み上げる、終わりのない遊びの場です。本作品では、砂のかわりに影が積もる〈影の砂場〉が舞台となります。日用品や玩具の影に、AIを用いて見立てられた像が、さまざまな位置やタイミングで次々と重なっては消えます。その見立てを経て、曖昧な像に「別の何か」を見る想像は、鑑賞者のうちにたえず立ち上がります。なにかを完成させることよりも、影をつくり続けるなかで、立ち現われる像が次の想像を呼び、その往還を体験します。

*Pareidolia:あるものを見たときに、ふだんからよく知っているパターンを本来そこに存在しないにもかかわらず心に思い浮かべる心理現象。

AIといっしょに想像しながら
作るってどんな体験?



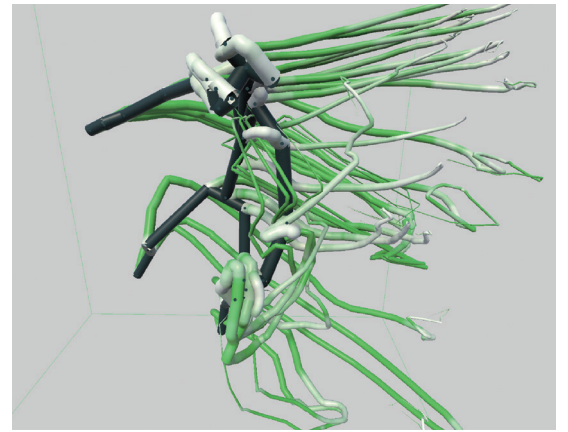
スコット・アレン《Unreal Pareidolia -shadows-》2023年(参考図版)

堀宏行

《みちのからだ》新作

子どもたちがブースの中で動くと、その軌跡は、時間をふくんだ「みち」として記録されます。そのみちのかたまりから、からだの動きを素材にした、あたらしい3Dのかたまりが生まれます。見慣れたはずのからだやその動きは、データとかたちを通して、これまでとは違った見え方をしはじめます。

からだの動きから作られている
作品なんだって。



開発中の3Dイメージ

metamu

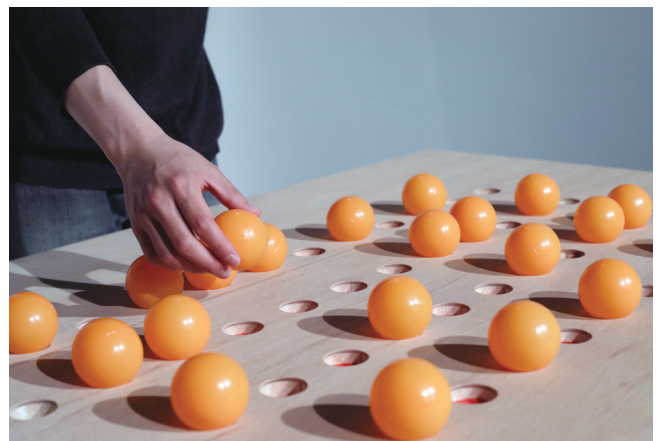
《Ambient Music Sequencer》新作

《Ambient Music Sequencer》は、オレンジ色のボールを置く、転がす、集める、崩す、そんな行為を通して、偶然に生まれる変化を音楽づくりに取り入れていく「設置楽器」です。

ボールがどこに置かれ、どのように動くかによって、音はそのつど異なるかたちで現われます。

子どもたちは自分の行為と偶然が重なり合うなかで、その場で立ち上がる音楽づくりを体験します。

これは楽器なの?
どうやって音をならすのだろう?



参考図版

[関連イベント]

会期中には、子どもたちの「もっとよく知りたい」に応えるためのワークショップなどの各種イベントやメディア・アートの表現や技術的側面に関心を持つ大人のためのトーク・イベントも実施予定です。

ギャラリーツアー

開催日時: 2026年8月1日(土) 午後2時-3時

定員: 20名(当日先着順、ICCでは午後1時30分より受付を開始します。)

対象: 小学生以上



ICC キッズ・プログラム 2025
「みくすとりありていーず——まよいの森とキミのコンパス」
ギャラリーツアーの様子

[同時開催の展覧会]

ICC アニュアル 2026 遺す／残る／受けとめる

出品作家: ウー・チーユウ、キム・ヨンウン、小林椋、SUGAI KEN、すずえり+比嘉了、葉山嶺、ローサ・メンクマン、森永泰弘、宮下恵太(エマージェンシーズ!048)*1、杉田碧(エマージェンシーズ!049)*2

会期: 2026年6月20日(土) - 11月8日(日)

会場: NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] ギャラリー B

入場料: 入場料: 一般 800円(700円)、大学生 600円(500円)

無響室作品体験: 一般・大学生 200円 年間パスポート: 2,000円

※()内は15名様以上の団体料金

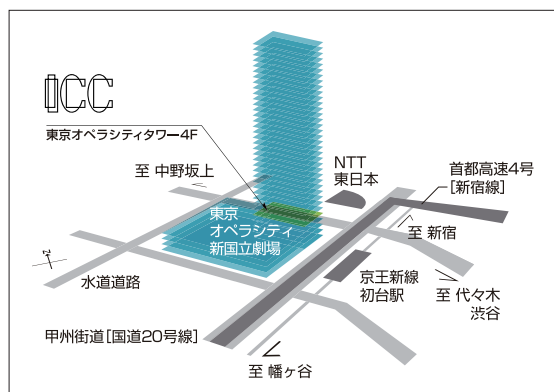
*1 展示期間: 6月20日(土) - 8月16日(日) *2 展示期間: 9月12日(土) - 11月8日(日)



葉山嶺(LYMENA)
撮影: 富田了平



ウー・チーユウ《セルロイドの物語》シリーズ作品 展示風景
撮影: 富田了平



NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] は、日本の電話事業100周年(1990年)の記念事業として1997年4月19日、東京/西新宿・東京オペラシティタワーにオープンしたNTT東日本の運営する文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。

広報に関するお問い合わせ

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]

広報担当: 赤坂恵美子

TEL: 03-5353-0800 FAX: 03-5353-0900

お問い合わせ: <https://www.ntticc.or.jp/ja/about/visit/contact/press/>

URL: <https://www.ntticc.or.jp/>